
おいしい恋のレシピ（前編）

皿尾 りお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

おいしい恋のレシピ（前編）

【Nコード】

N5650D

【作者名】

皿尾 りお

【あらすじ】

おいしい恋のレシピが出来上がりました。冷めないうちに、召し上がれ。

「ふう……今日も疲れたあ……」

里佳子は仕事帰り、必ずと言っていいくらい、オフィス街である会社近くのスタバに寄って帰る。

派遣社員の里佳子は、ほぼ毎日、定時に会社を後にする。

そして疲れた体を引きずりながら、そのまま真っ直ぐ近くのスタバに寄る。客の姿はまだ、まばらだ。

里佳子はいつものショートのエスプレッソを頼むと、いつもの指定席に座り、白いフェイクファーのコートを脱ぐと温かいエスプレッソを一口啜った。

里佳子はここの席が気に入っていた。

ここの席はガラス窓を挟んで、人々が行き交う道に面しており、せわしなく行き交う人々の顔が良く見える。

この席から、様々な人を観察する事が、里佳子の会社帰りの密かな楽しみだった。

本当に色々な人がいると思う。

肩を落としながら歩くスーツ姿の中年男性や、出勤前のホステス風の女性、幸せそうに歩く老夫婦などなど。

オフィス街でありながらも、ほんと、様々な人がいると思う。

様々な人がいると思えば、里佳子は明日からも頑張れると思う。

そう思えば、明日からも頑張るために、自分の寢床に帰ろうと、里佳子はスタバを後にする。

その日もいつものように、里佳子はスタバに向かった。

「!？」

店の前まで来ると、里佳子は一瞬、目を疑った。

「速見もこみち!？」

里佳子がスタバの外から店内を見ると、里佳子の指定席には、若いスーツ姿の男性が外を眺めながら座っていた。

里佳子は、内心、「まさかね・・・」と思いながらも、そろりと店内に入り、いつものエスプレッソを頼むと、まだ客がまばらな店内で、その男の顔が見えそうな席を探し、見えそうな席を見つけると、コートも脱がずにエスプレッソを一口啜りながら、その男の後ろ姿を眺めた。

それが、彼との初めての出会いだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5650d/>

おいしい恋のレシピ（前編）

2011年1月27日07時37分発行